

HSE リスク・シーキューブ 第7回 理事会 議事録

日時：平成 22 年 6 月 19 日（土）13 時 30 分～15 時 10 分

場所：東海村合同庁舎 304 会議室

出席：谷口，佐藤，土屋，小宮山，清水，中村

1) 平成 21 年度事業報告案および収支決算報告案について

土屋副代表理事より、通常総会で報告する平成 21 年度事業報告案と平成 21 年度収支決算書案が紹介された。また、収益事業と収益事業以外の貸借対照表および損益計算書の説明があった。

清水：市民講座の出席者人数を入れてはどうか。また、日本立地センターに応募したり，交流会に参加したりしたことが抜けている。

佐藤：出席者数を把握しているのか？

土屋：村に事業報告書を提出しており，そこには記録があるので，それを記載したい。また，日本立地センターの交流会参加を追記したい。

小宮山：ホームページを改修したことを強調してはどうか。

土屋：新しいホームページは 6 月 1 日から運用開始なので，21 年度成果としては簡単な記載とした。

佐藤：来年度への繰越金が 100 万円を超えたが，これへの課税はないのか？ 今後，会費を上げるといふ心配はしなくてよいと考えてよいか？

土屋：税金は，収益事業の利益に対してかかるので，繰越金とは関係ない。また，今年は繰越が多いが，来年の予算案を見てもらうと分かるように，広報誌の配布費用がかかったり，研修を受ける回数が少なかったりすれば赤字になり，繰越金は減っていく。

2) 平成 21 年度計画と予算案について

土屋副代表理事より，平成 22 年度活動計画と予算案が紹介された。22 年度受託事業として東海村に提出した原子力講座開催業務および住民原子力懇談会開催業務の実施仕様書と見積書案も併せて紹介された。

清水：原子力講座事業があるが，小・中・高校生に対する講演会を行ってはどうか？ 市民講座は一定の成果を上げてきているが，若い世代に対する活動は行ってきていない。事業所関係では原子力に関する出前授業をやっているが，NPOではできていない。

佐藤：よい提案であるが，誰がやるのか？

中村：会費収入だけでは 10 万円の赤字になっている。

佐藤：日本立地センターに応募しないことに決めたが，収益基盤が弱いことを考えるとよかつたのだろうか？

中村：収益事業はすべて土屋理事に依存している。これ以上，新しい事業を行うのは困難ではないか。収益事業に依存しないようにするには，会員を増やすことである。

土屋：会員数は減少傾向にあったが，少し増えて安定している。広報誌で入会された方もあり，地道な努力が効果を上げているようである。

3) その他

佐藤：他地域との交流会は可能か？

土屋：どことどのような交流会を行い、どれくらい負担があるかに依存する。どこまで繰越金を減らすかという選択の問題。

池田：半分個人負担するという考え方もある。

佐藤：もんじゅも運転を再開したので、敦賀地区の人と交流してはどうか。

清水：原子力機構に聞いたところでは、あまり関心がなく、しーきゅうぶのような活動をしているところはないようである。

中村：どのような団体があるのかを調べてはどうか。

佐藤：日本立地センターなどでも把握していると思うので、活用してはどうか。

中村：敦賀は古い発電所であり、もんじゅもあって、東海村の関心と合致する。

谷口：これまでの交流会は柏崎とだけだった。

佐藤：費用負担が大きいということであれば、福島という話もある。

土屋：費用の問題よりも、何を目的に行うか、だと思う。

谷口：意見交換だけでよいのか？ 見学もしたいのか？

佐藤：見学もできればしたい。

谷口：まず、全国どのサイトでも発電所の見学は大幅に制限されている。発電所側も見せたくても見せられない状況。PRホールだけでもよいのか？ 発電所もバスから見る程度。女川などのようにシースルーで見学できる通路がある所でも、外部の特定の人しか入れない。

小宮山：澤井さんから、今のように見学を制限していると、今後原子力施設は作れない、という意見をいただいている。

谷口：中にはPR館の展示を変更したり、ビデオで説明したり工夫しているところもある。見学の制限は核セキュリティ上のものであり、国から指示が出ている。現状でも、国際標準から見ると核セキュリティの水準は低いと評価されている。交流会を行うことはよいことであるが、見学には期待しないようにすべき。交流相手については、原子力機構や原電にたずねるとよい。

※土屋理事が交流先を調査することになった。

中村：しーきゅうぶ東海村の視察は曲がり角にきている。現場を見るという視察ができない以上、市民活動として何ができるのかを考えるべき。

小宮山：原電は、現場も見せずにどうやって住民に安全を知らせようとしているのか？ どう説明しようとしているのか？ 我々は住民にどう伝えられるのか？ 今後の視察で検討していく必要がある。

佐藤：我々が事業所と市民との間をどうつなぐことができるのかが重要。他地域との交流会では、他の団体がどうやっているのかについて意見交換したい。

小宮山：現場を見せなくても、トラブルの原因と対策を説明してもらおうというのでもよい。

谷口：柏崎・刈羽原子力発電所の透明性を確保する会は、特別な扱いで現場に入っていると聞いているが、今後、すべての号機が稼働した場合、立ち入れなくなり、同じ問題をもつだろう。他地域との交流会では問題意識を共有し、現場見学の代替案を議論してもよい。

中村：我々が何らかの代替案を提示すれば、さきがけにあるかもしれない。

佐藤：事業計画に防災ワーキングが記載されていないが，継続したいという意見が大半だったので，計画に入れてはどうか。

※事業計画に加えることになった。

その他，中央公民館講座の講師案について意見交換を行った。